1 StorageServerについて

StorageServerの各部の名称やその機能、特長について説明します。

StorageServerの特長

StorageServerについて紹介します。

おもな特長と機能

Express5800/StorageServerはネットワーク上のクライアントPCが利用するさまざまなデータやデータベースをハードディスクに格納することにより、資産の共有化と一元管理化を目的としたネットワークファイルサーバです。

■ Network Attached Storage(NAS)

NASとは、既存環境に対する変更を加えることなく、大規模ストレージシステムを提供するネットワーク接続型ストレージに特化したアプライアンスサーバです。

一般的にNASは非常に導入が容易です。ネットワーク管理やOSに関する広範な知識がなくとも使用することができ、通常管理業務はクライアントからWebブラウザベースのGUI経由で行うことができます。ユーザーはNASをネットワークに接続、電源を投入し、最小限のセットアップ作業を行うだけで運用を開始することができます。

■ 用途やシステム規模に応じたフルラインアップ

ご利用になる環境やシステムの規模に応じて3つのモデルを用意しています。

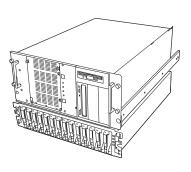
エントリモデル(タワータイプ)
- N8100-725 -

内蔵ハードディスクのホットスワップに対応。フロントベゼルロックによるセキュリティも考慮されたミドルタワーモデル。ハードディスクを3台搭載(最大6台)。ワークグループや部門向け。

エントリモデル(ラックタイプ)
- N8100-726 -

高さ2U(2ユニット:約88mm)のスリムなラックマウントモデル。ハードディスクを3台搭載(最大5台、ホットスワップ対応)。ワークグループや小規模ISP向け。

ミッドレンジモデル　- NS8100-722J01 -

高さ5U(5ユニット: 約220mm)のラックマウントモデル。ハードディスクを2台搭載。またハードディスクを最大14台搭載できるハードディスク専用のディスクエンクロージャユニットを標準装備(標準で6台のハードディスクを搭載済み)。中小規模の企業やISP向け。

■ 高速なファイルサービス

ファイルサービスに最適化した専門設計により、高コストパフォーマンスを実現。

■ 高い処理性能

- NAS(Network Attached Storage)サーバとしての性能向上に必要な機能のみを実装したスリムな専用サーバ
- ファイルアクセスの性能をチューニングし、優れたパフォーマンスを提供
- マルチプロトコルに対応

■ 容易なシステムの導入と設定

CIFS(Windows)、NFS(UNIX)ベースの混在するネットワーク環境に設定から稼働まで約10分で導入が可能です。

■ 高い運用管理能力

システム運用管理ソフトウェアESMPROで他のサーバ、ワークステーションと連携し、稼働状況の遠隔管理も可能

■ 拡張性

データ用ディスク(NS8100-722J01のみ)　データ用ディスクシステム用ディスクとデータ用ディスクが物理的に分離されており、データ用は標準構成ではRAID5で構成されています。また、ディスクを追加し、添付のディスクアレイ管理ソフトウェアでRAID構成を変更/追加することでデータ領域の拡張が簡単にできます。

ホットプラグ対応　ディスクはホットプラグ対応のため電源をOFFにすることなく交換することができます。

■ 管理機能

システム運用管理ソフトウェアESMPROとの統合　ESMPRO/ServerManagerによる一元管理可能になり、稼動状況の遠隔監視が可能になります。

ディスクアレイ管理ソフトウェアGlobal Array Managerによる運用・管理　Global Array Manager(GAM)によりディスクアレイの運用・管理を一元化することができます。また、稼動状況の遠隔監視が可能になります。ESMPROとも連携しています。

エクスプレス通報サービス　エクスプレス通報サービスをお申し込みいただくことで、管理センターからの遠隔管理が可能になります。

■ ファイルサーバ機能

マルチプロトコル対応　CIFS、NFS、FTPのマルチプロトコルに対応。WindowsやUNIX、Linuxなどが混在する既存のネットワーク環境に設置するだけで簡単にそのネットワーク環境での記憶容量を拡張することができます。

ファイルアクセス制御　ファイルシステムにNTFSを使用しているため、ファイルのアクセス制御をきめ細かく設定できます。

■ OSファイルオーバー機能(NS8100-722J01のみ)

1台目のドライブ上のシステムボリュームから起動に失敗した場合、2台目にミラーリングされたシステムボリュームから起動させることができます。

添付のCD-ROMについて

StorageServerには、NASソフトウェアを格納した「Network Attached Storage CD-ROM」と、保守・管理用のソフトウェアを格納した「Express5800/StorageServer 保守・管理ツールCD-ROM」の2枚が添付されています。

添付のCD-ROMは、StorageServerの設定が完了した後でも、システムの再インストールやシステムの保守・管理の際に使用する機会があります。なくさないように大切に保存しておいてください。

- Network Attached Storage CD-ROM

StorageServerシステムのバックアップとなるCD-ROMです。

再セットアップの際は、このCD-ROMからStorageServerへソフトウェアをインストールします。詳細は267ページを参照してください。

購入時のハードディスクには、StorageServerに必要なOSやモジュール、コンポーネント、管理用アプリケーションがすべてインストール済みです。初めてのセットアップでは、「Express5800/StorageServer 保守・管理ツールCD-ROM」を使って作成した「設定ディスク」(3.5インチフロッピーディスク1枚)をセットして電源をONにするだけでセットアップは完了します(約10分)。

CD-ROMの中にはおもに次のOSやコンポーネント、モジュール、アプリケーションが格納されています。これらは、再セットアップの際に自動的にインストールされます。

- Microsoft Windows Powered OSとStorageServerに必要な関連モジュール(Service Pack 1を含む)
- Service for UNIX(UNIX環境との接続に使用するモジュール)
- SnapShot(即時データ複製を可能にするアプリケーション)
- ESMPRO/ServerAgent Ver.3.8(StorageServer管理用統合アプリケーション)
- Global Array Manager(GAM) Sever(ディスクアレイ管理用アプリケーション)
- エクスプレス通報サービス(StorageServer保守用アプリケーション、利用には別途契約が必要です)
- 自動クリーンアップツール(ディスクアレイ管理用アプリケーション)
- Array Recovery Tool(ディスクアレイ管理用アプリケーション)
- その他、専用デバイスドライバや専用モジュール

- **Express5800/StorageServer 保守・管理ツールCD-ROM**

  StorageServerを保守・管理したいときに使用するCD-ROMです。

  このCD-ROMには次のようなソフトウェアが格納されており、その用途に合わせて使用されます。

  − StorageServer保守・管理ツール

  − 初期設定ツール

  − ESMPRO/ServerManager

  − Global Array Manager(GAM) Client

  − Express5800/StorageServer連携モジュール

  − MWA

  CD-ROMはWindows 95/98/Me/2000またはWindows NT 4.0が動作しているコンピュータのCD-ROMドライブにセットすると、自動的に「Install Menu」が起動します。Install Menuからは、Windows 95/98/Me/2000、Windows NT 4.0で動作する各種ソフトウェアの実行やインストールをすることができます。

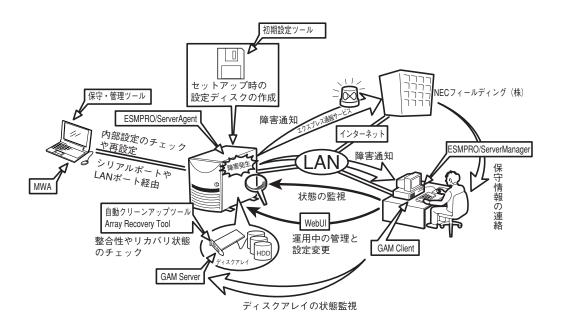
管理アプリケーションの用途

添付のCD-ROMに格納されている管理アプリケーションの用途について簡単に説明します。

StorageServerの運用や管理に関する詳細な説明は、本書の3章「管理者ガイド」に記載されています。

StorageServerに関する最新の情報は次のホームページからダウンロードすることができます。

http://www.express.nec.co.jp/

「58番街」: 製品情報やQ&Aなど最新のExress5800シリーズ情報満載!

ESMPRO

「ESMPRO®」は、NECが提供するサーバ管理・監視ソフトウェアです。

リモートでStorageServerの稼動状況や障害の監視を行い、障害を事前に防ぐことや万一の場合に迅速に対応することができます。

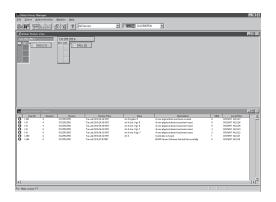
StorageServerを運用する際は、ESMPROを利用して、万一のトラブルからシステムを守るよう心がけてください。

StorageServerを監視するソフトウェア「ESMPRO/ServerAgent」は「Network Attached Storage CD-ROM」に、StorageServerを管理するためのソフトウェア「ESMPRO/ServerManager」は、「Express5800/StorageServer 保守・管理ツールCD-ROM」に格納されています(ESMPRO/ServerAgentはあらかじめStorageServerの一部として本体に組み込まれています)。

ESMPROを使ってさらに高度なクライアントサーバシステムを構築する場合は別売の「ESMPROシステム構築ガイド Ver.2.0(UL9005-201)」を参照してください。この説明書はESMPRO製品をシステムで活用するためのガイドです。

また、ESMPROには、サーバ管理用ソフトウェアをはじめ、ネットワーク管理や電源管理、ストレージ管理を行う専用のアプリケーション(ESMPROプロダクト)が用意されています。ESMPROプロダクトについては、お買い求めの販売店、または保守サービス会社にお問い合わせください。

Global Array Manager(GAM)

Global Array Manager(GAM)は、StorageServerに内蔵のディスクアレイコントローラやディスクアレイコントローラに接続しているハードディスク(アレイディスク)の運用と保守、監視をするアプリケーションです。
StorageServerのハードディスクはディスクアレイを採用しているため、万一のハードディスクの故障によるデータの消失を防ぐことができますが、StorageServerを運用する際は、GAMを利用して、万一のトラブルから故障したハードディスクを交換して、ディスクアレイを正常な状態いち早く復旧させるよう心がけてください。

StorageServerを監視するソフトウェア「GAM Server」は「Network Attached Storage CD-ROM」に、StorageServerを管理するためのソフトウェア「GAM Client」は、「Express5800/StorageServer 保守・管理ツールCD-ROM」に格納されています(GAM ServerはあらかじめStorageServerの一部として本体に組み込まれています)。

GAM Clientがインストール済みの管理PCに後からESMPRO/ServerManagerをインストールした場合は、GAM Clientの環境設定を設定し直してください。詳しくは、4章を参照してください。

自動クリーンアップツール/Array Recovery Tool

自動クリーンアップツールは、コンシステンシチェック（アレイディスクの整合性チェック）をするためのコマンドを提供します（以降、コンシステンシチェックコマンドと呼ぶ）。
定期的なコンシステンシチェックの自動実行は、Windows Poweredの標準機能である「ATコマンド」と「Scheduleサービス」を組み合わせてコンシステンシチェックコマンドを使用することにより実現します。

Array Recovery Toolは、Mylexディスクアレイコントローラに接続されているハードディスクの状態を監視し、不良ハードディスク（DEAD状態）を検出すると自動的にリビルド、整合性チェックを行い、システムドライブを復旧します。

自動クリーンアップツールとArray Recovery Toolは「Network Attached Storage CD-ROM」に格納されています（これらのアプリケーションはあらかじめStorageServerの一部として本体に組み込まれています）。

エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスに登録することにより、システムに発生する障害情報（予防保守情報含む）を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報することができます。
本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知したり、障害発生時に迅速に保守を行ったりすることができます。
また、お客様のサーバ上で動作するエクスプレス通報サービスと、クライアント上で動作するシステム監視サービス（DMITOOL）を連携させることでシステムを安定に稼働させることができる、クライアント／サーバ型の保守サービス（PC通報連携機能）を提供しています。

重要

エクスプレス通報サービスの利用には別途契約が必要です。

エクスプレス通報サービスは「Network Attached Storage CD-ROM」に格納されています（これらのアプリケーションはあらかじめStorageServerの一部として本体に組み込まれています）。

保守・管理ツール

後述の「MWA」を介してリモートでStorageServerを管理したり、システム診断、オフライン保守ユーティリティの実行などを行ったりします。詳細は182ページを参照してください。
保守・管理ツールは「Express5800/StorageServer 保守・管理ツールCD-ROM」に格納されています。

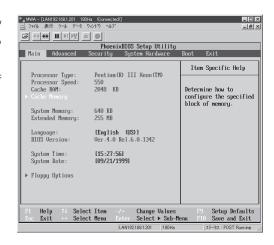
初期設定ツール

StorageServerの導入時に使用する「設定ディスク」を作成するツールです。このツールを使ってコンピュータ名やネットワークの設定を設定ディスクに書き込み、導入の際にStorageServerに読み込ませます。詳細は62ページを参照してください。初期設定ツールは「Express5800/StorageServer 保守・管理ツールCD-ROM」に格納されています。

Express5800/StorageServer連携モジュール

ESMPRO/ServerManagerがインストールされている環境にExpress5800/StorageServer連携モジュールを適用することで、ESMPRO /ServerManagerより、Express5800/StorageServerの管理コンソール(WebUI)が起動できます。

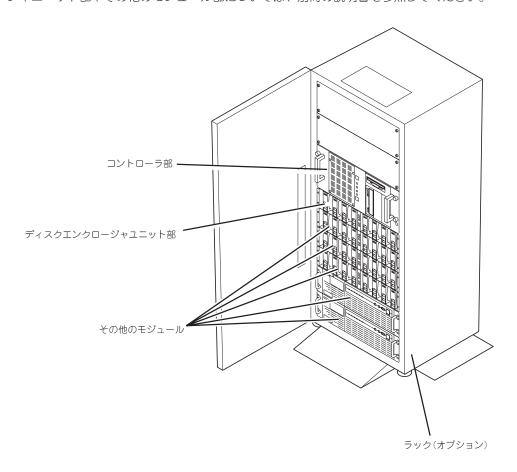
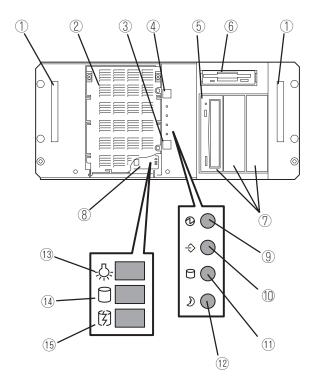
Management Workstation Application(MWA)

リモート(LAN接続またはクロスケーブルによるダイレクト接続)で管理PCからStorageServerを管理したい時に使用するソフトウェアです。詳細は176ページを参照してください。

各部の名称と機能

それぞれのモデル別に各部の名称を示します。

重要 StorageServerでは、ここで説明していないスイッチやコネクタは使用しません。使用すると故障の原因となります。

ミッドレンジモデル - NS8100-722J01 -

ここではStorageServerのコントローラ部の各部の名称を示します。ディスクエンクロージャユニット部やその他のモジュール部については、別冊の説明書を参照してください。

装置前面

① ハンドル

ラックへ取り付けたり、ラックから引き出すときに持つ取っ手。

② HDDカバー

ハードディスクを保護するカバー。

③ SLEEPスイッチ

本システムでは動作しません。

④ POWERスイッチ

電源をON/OFFするスイッチ。一度押すとPOWERランプが点灯し、ONの状態になる。もう一度押すと電源をOFFにする。4秒以上押し続けると強制的にシャットダウンする。

⑤ CD-ROMドライブ

CD-ROMのデータの読み出しを行う。

⑥ 3.5インチフロッピーディスクドライブ

3.5インチフロッピーディスクを挿入して、データの書き込み／読み出しを行う装置。

⑦ 5.25インチデバイスベイ

オプションのDAT（デジタルオーディオテープ）ドライブや光磁気ディスクドライブなどを取り付ける場所。

⑧ ハードディスク搭載スロット

6スロット中、上部2スロットを使用。SCSI IDは上側がID0、下側がID1。

⑨ POWERランプ（緑色）

電源をONにすると緑色に点灯する。電源をOFFにするか、装置内部の電源に故障が起きると消灯する。

⑩ STATUSランプ（緑色/アンバー色）

正常に動作しているときは緑色に、異常を検出するとアンバー色に点灯する。

⑪ DISKアクセスランプ（緑色/アンバー色）

内蔵のハードディスクにアクセスしているときに緑色に点灯する。内蔵のハードディスクのうち、いずれか1つでも故障するとアンバー色に点灯・点滅する。

⑫ SLEEPランプ（アンバー色）

本システムでは動作しません。

⑬ DISKパワーランプ（緑色）

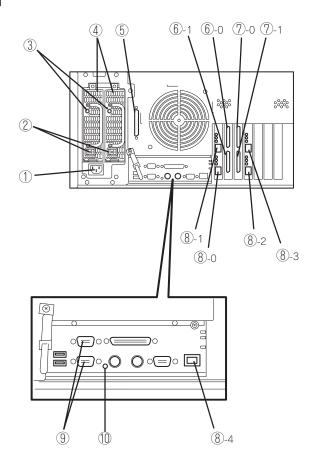
取り付けているハードディスクに電源が供給されると点灯する。

⑭ DISKアクセスランプ（緑色）

取り付けているハードディスクが動作しているときに点灯する。

⑮ DISK故障ランプ（アンバー色）

取り付けているハードディスクが故障すると点灯し、リビルド中は点滅する。

装置背面

① ACインレット

電源コードを接続するソケット。

② 電源ユニットPOWERスイッチ

StorageServerに搭載されている電源ユニットの電源スイッチ。

③ 電源ユニットPOWERランプ

電源ユニットPOWERスイッチがONの状態で、電源コードからAC電源を受電中に点灯する。

④ 電源ユニット

StorageServerにDC電源を供給する装置。

⑤ Wide SCSIコネクタ

Ultra SCSI(Wide対応)インタフェースを持つ外付けのSCSI機器と接続する。

⑥ ディスクアレイコントローラ1コネクタ

ディスク増設ユニットに接続してディスクアレイを構成するコネクタ。丸数字の後の番号はチャネル番号を示す。

⑦ ディスクアレイコントローラ2コネクタ

ディスク増設ユニットに接続してディスクアレイを構成するコネクタ。丸数字の後の番号はチャネル番号を示す。

⑧ LANポートコネクタ

LAN上のネットワークシステムと接続する。丸数字の後の数字はポート番号を示す。接続はポート番号の小さい順に接続する。

(⑧-0〜⑧-3にあるランプ(3個)の機能については、「ランプ表示」を参照してください。)

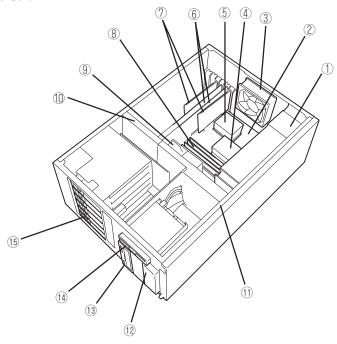
⑨ シリアルポート1コネクタ(上側)/シリアルポート2コネクタ(下側)

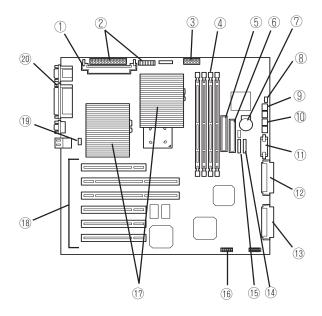
シリアルインタフェースを持つ装置と接続する。
なお、専用回線に直接接続することはできません。

シリアルポート2(COM2)コネクタは管理コンソールのインタフェースに予約されています(初期状態)。

⑩ DUMPスイッチ

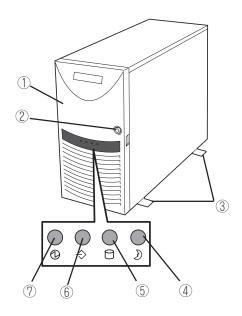
StorageServer本体に起きたイベントログを採取する。

装置内部

① 電源ユニット
② マザーボード
③ 冷却ファン(背面)
④ CPU2
⑤ CPU1
⑥ ディスクアレイコントローラボード
⑦ LANボード
⑧ DIMM(Slot #1に1枚標準装備)
⑨ 冷却ファン(CPU)
⑩ 冷却ファン(PCIデバイス)
⑪ カバーオープンセンサ
⑫ 5.25インチデバイスベイ(CD-ROMドライブは標準装備)
⑬ CD-ROMドライブ
⑭ 3.5インチフロッピーディスクドライブ
⑮ 3.5インチデバイスベイ

マザーボード

* ここでは本装置のアップグレードや保守(部品交換など)の際に使用するコネクタのみあげています。その他のコネクタや部品については出荷時のままお使いください。

① VRMソケット
② 電源コネクタ
③ 電源信号コネクタ
④ DIMMソケット(右からSlot #1→Slot #2→Slot #3→Slot #4)
⑤ IDEコネクタ(CD-ROMドライブ用)
⑥ フロッピーディスクドライブコネクタ
⑦ リチウム電池
⑧ スピーカコネクタ
⑨ 冷却ファン(CPU)コネクタ
⑩ 冷却ファン(PCIデバイス)コネクタ
⑪ SCSIバックパネル用コネクタ
⑫ Ultra Wideコネクタ(5.25インチデバイス、外付けSCSI機器用)
⑬ Ultra-160/mコネクタ(3.5インチデバイスベイに搭載するハードディスク用)
⑭ スイッチ/オープンセンサコネクタ
⑮ LEDコネクタ
⑯ CMOS/パスワードクリア用ジャンパスイッチ
⑰ CPUコネクタ(左: CPU1、右: CPU2)
⑱ PCIボードスロット(6スロット。上からPCI#1→PCI#2→PCI#3→PCI#4→PCI#5→PCI#6)
⑲ 冷却ファン(背面)コネクタ
⑳ 外部接続コネクタ

エントリモデル(タワータイプ) - N8100-725 -

装置外観

① フロントベゼル

POWERスイッチ、CD-ROMドライブ、フロッピーディスクドライブを取り扱うときに開ける。添付のセキュリティキーでロックすることができる。

② キースロット

フロントベゼルのロックを解除するセキュリティキーの差し口。

③ スタビライザ

転倒防止用のストッパ。

④ SLEEPランプ(アンバー色)

本システムでは動作しません。

⑤ DISKアクセスランプ(緑色/アンバー色)

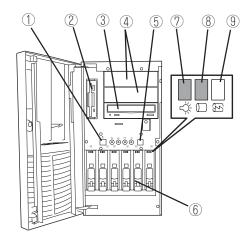
内蔵のハードディスクにアクセスしているときに緑色に点灯する。

⑥ STATUSランプ(緑色/アンバー色)

正常に動作しているときは緑色に、異常を検出するとアンバー色に点灯する。

⑦ POWERランプ(緑色)

電源をONにすると緑色に点灯する。電源をOFFにするか、装置内部の電源に故障が起きると消灯する。

装置前面

① POWERスイッチ

電源をON/OFFするスイッチ。一度押すとPOWERランプが点灯し、ONの状態になる。もう一度押すと電源をOFFにする。4秒以上押し続けると強制的にシャットダウンする。

② 3.5インチフロッピーディスクドライブ

3.5インチフロッピーディスクを挿入して、データの書き込み／読み出しを行う装置。

③ CD-ROMドライブ

CD-ROMのデータの読み出しを行う。

④ 5.25インチデバイスベイ

オプションのDAT（デジタルオーディオテープ）ドライブや光磁気ディスクドライブなどを取り付ける場所。

⑤ SLEEPスイッチ

本システムでは動作しません。

⑥ ハードディスク

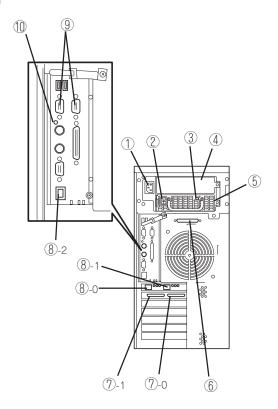
3台標準で搭載。

⑦ DISKパワーランプ（緑色）

取り付けているハードディスクに電源が供給されると点灯する。

⑧ DISKアクセスランプ（緑色）

取り付けているハードディスクが動作しているときに点灯する。

⑨ DISK故障ランプ（アンバー色）

取り付けているハードディスクが故障すると点灯し、リビルド中は点滅する。

装置背面

① ACインレット

電源コードを接続するソケット。

② 電源ユニットPOWERスイッチ

StorageServerに搭載されている電源ユニットの電源スイッチ。

③ 電源ユニットPOWERランプ

電源ユニットPOWERスイッチがONの状態で、電源コードからAC電源を受電中に点灯する。

④ 電源ユニット増設スロット

オプションの電源ユニットを取り付けるスロット。オプションを増設するとStorageServerは冗長構成(一方の電源ユニットが故障してももう一方の電源ユニットで運転を続けることができる)で動作する。

⑤ 電源ユニット

StorageServerにDC電源を供給する装置。

⑥ Wide SCSIコネクタ

Ultra SCSI(Wide対応)インタフェースを持つ外付けのSCSI機器と接続する。

⑦ ディスクアレイコントローラコネクタ

ディスク増設ユニットに接続してディスクアレイを構成するコネクタ。丸数字の後の番号はチャネル番号を示す。⑦-0は内部のハードディスクと接続しているため、使用不可。

⑧ LANポートコネクタ

LAN上のネットワークシステムと接続する。丸数字の後の数字はポート番号を示す。接続はポート番号の小さい順に接続する。

(⑧-0〜⑧-1にあるランプ(3個)の機能については、「ランプ表示」を参照してください。)

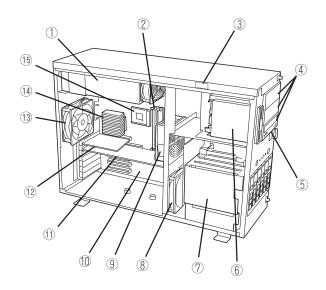
⑨ シリアルポート1コネクタ(上側)/シリアルポート2コネクタ(下側)

シリアルインタフェースを持つ装置と接続する。
なお、専用回線に直接接続することはできません。

シリアルポート2(COM2)コネクタは管理コンソールのインタフェースに予約されています(初期状態)。

⑩ DUMPスイッチ

StorageServer本体に起きたイベントログを採取する。

装置内部

① 電源ユニット

② DIMM(Slot #1に1枚標準装備)

③ カバーオープンセンサ

④ 5.25インチデバイスベイ(CD-ROMドライブは標準装備)

⑤ CD-ROMドライブ

⑥ 3.5インチフロッピーディスクドライブ

⑦ 3.5インチデバイスベイ

⑧ 冷却ファン(PCIデバイス)

⑨ 冷却ファン(CPU)

⑩ マザーボード

⑪ ディスクアレイコントローラボード

⑫ LANボード

⑬ 冷却ファン(背面)

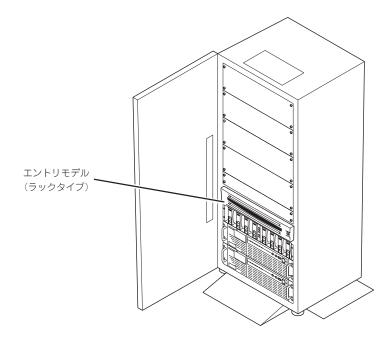
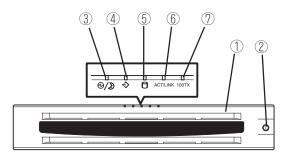
⑭ CPU1

⑮ ターミネータ

マザーボード

14ページを参照してください。ただし、CPU(プロセッサ)はCPU1にのみ搭載されています。

エントリモデル(ラックタイプ) - N8100-726 -

ラックやその他のモジュールについては、それぞれのモジュールに添付の説明書を参照してください。

装置前面

① **フロントベゼル**

日常の運用時に前面のデバイス類を保護するカバー。添付のセキュリティキーでロックすることができる。

② **キースロット**

フロントベゼルのロックを解除するセキュリティキーの差し口。

③ **POWERランプ(緑色/アンバー色)**

電源をONにすると緑色に点灯する。電源をOFFにするか、装置内部の電源に故障が起きると消灯する。また、本体がスリープ状態のときにはアンバー色に点灯する(本システムでは動作しません)。

④ **STATUSランプ(緑色/アンバー色/赤色)**

正常に動作しているときは緑色に、異常を検出するとアンバー色/赤色に点灯する。

⑤ **DISK ACCESSランプ(緑色/アンバー色)**

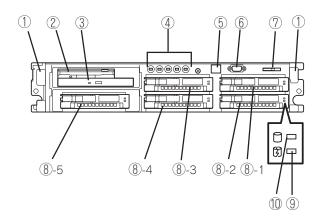
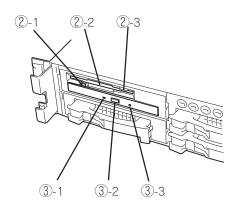
内蔵のハードディスクにアクセスしているときに緑色に点灯する。内蔵のハードディスクのうち、いずれか1つでも故障するとアンバー色に点灯する。

⑥ **ACT/LINKランプ(緑色)**

背面のLANポート2がLINKしているときに点灯し、ACTIVEで点滅する。

⑦ **100TXランプ(緑色)**

背面のLANポート2が100Mbpsで動作しているときに点灯する。10Mbpsで動作しているときに消灯する。

装置前面　～フロントベゼルを取り外した状態～

① **ハンドル**

ラックへ取り付けたり、ラックから引き出すときに持つ取っ手。

② **3.5インチフロッピーディスクドライブ**

3.5インチフロッピーディスクを挿入して、データの書き込み／読み出しを行う装置。

②-1　ディスクアクセスランプ

②-2　ディスク挿入口

②-3　イジェクトボタン

③ **CD-ROMドライブ**

CD-ROMのデータの読み出しを行う。

③-1　ディスクアクセスランプ

③-2　CDトレーイジェクトボタン

③-3　エマージェンシーホール

④ **ランプ（5個）**

前ページ参照。

⑤ **POWERスイッチ**

電源をON/OFFするスイッチ。一度押すとPOWERランプが点灯し、ONの状態になる。もう一度押すと電源をOFFにする。4秒以上押し続けると強制的に電源をOFFにする。

⑥ **シリアルポート2コネクタ（保守用）**

保守員が必要に応じて使用するポート。
通常の運用時には何も接続しないでください。

⑦ **カバーオープンセンサスイッチ**

フロントベゼルの取り付け状態を確認するセンサ。
このセンサの機能を無効にしないでください。

⑧ **ハードディスクベイ**

3台標準で搭載。最大5台まで搭載可能。丸数字の後の数字は増設順序を示す。ハードディスクを搭載していないベイにはスポンジ付きのダミートレーが搭載されている。

⑧-1　SCSI ID0

⑧-2　SCSI ID1

⑧-3　SCSI ID2

⑧-4　SCSI ID3

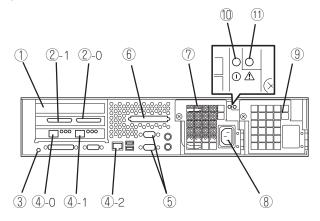
⑧-5　SCSI ID4

⑨ **DISK故障ランプ（アンバー色）**

取り付けているハードディスクが故障すると点灯し、リビルド中は点滅する。

⑩ **DISKパワー/アクセスランプ（緑色）**

取り付けているハードディスクに電源が供給されると点灯し、アクセスすると点滅する。

装置背面

① **PCIボード増設用スロット**

オプションのPCIボードを取り付けるスロット。

② **ディスクアレイコントローラコネクタ**

ディスク増設ユニットに接続してディスクアレイを構成するコネクタ。丸数字の後の番号はチャネル番号を示す。②-0は内部のハードディスクと接続しているため、使用不可。

③ **DUMPスイッチ**

押すとメモリダンプを実行する。

④ **LANポートコネクタ**

LAN上のネットワークシステムと接続する。丸数字の後の数字はポート番号を示す。接続はポート番号の小さい順に接続する。

（④-0～④-1にあるランプ（3個）の機能については、「ランプ表示」を参照してください。）

⑤ **シリアルポート1コネクタ（上側）/シリアルポート2コネクタ（下側）**

シリアルインタフェースを持つ装置と接続する。
なお、専用回線に直接接続することはできません。

シリアルポート2（COM2）コネクタは管理コンソールのインタフェースに予約されています（初期状態）。

装置前面のシリアルポート2コネクタ（保守用）を使用している場合は、装置背面のシリアルポート2コネクタには何も接続しないでください。誤動作の原因となります。

⑥ **Wide SCSIコネクタ**

外付けのSCSI機器と接続する。装置内部のケーブル接続を変更することで使用できる。

⑦ **電源ユニット**

StorageServerにDC電源を供給する装置。

⑧ **ACインレット**

電源コードを接続するソケット。

⑨ **電源ユニット増設用スロット**

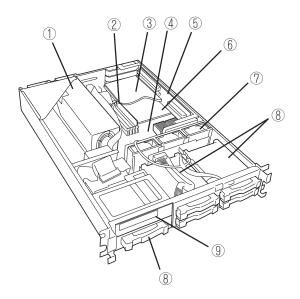
オプションの電源ユニットを取り付けるスロット。

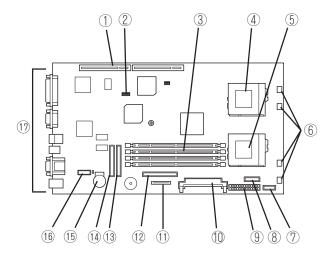
⑩ **電源ユニットステータスランプ（緑色）**

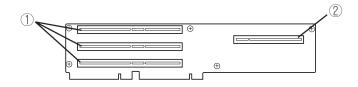
電源ユニットの状態を示すランプ。正常に動作している間、緑色に点灯する。

⑪ **電源ユニットフォールトランプ（赤色）**

電源ユニットに異常を検出すると赤色に点灯する。

装置内部

① 電源ユニット
② DIMMボード
③ ディスクアレイコントローラボード
④ マザーボード
⑤ ライザーカード
⑥ LANボード
⑦ ファンユニット
⑧ ハードディスクベイ
⑨ フロッピーディスク/CD-ROMドライブベイ

マザーボード

① ライザーカードスロット
② CMOS/パスワードクリア用スイッチ
③ DIMMソケット(上から#1〜#4)
④ CPU#1ソケット(標準装備)
⑤ CPU#2ソケット(増設用)
⑥ ファンコネクタ(4個)
⑦ 電源バックパネル接続コネクタ
⑧ SCSIバックパネル接続コネクタ
⑨ 電源コネクタ
⑩ 増設VRMソケット
⑪ フロッピーディスクドライブコネクタ
⑫ IDEコネクタ(CD-ROMドライブ用)
⑬ SCSI-Bコネクタ
⑭ SCSI-Aコネクタ
⑮ リチウム電池(バッテリ)
⑯ シリアルポート2コネクタ
前面のシリアルポートコネクタ(保守用)と接続されている
⑰ 外部接続コネクタ

ライザーカード

① PCIスロット(下から#1〜#3)
② PCIスロット(#4)

ランプ表示

StorageServerのランプの表示とその意味は次の通りです。

ミッドレンジモデル/エントリモデル(タワータイプ)(NS8100-722J01/N8100-725)

NS8100-722J01/N8100-725のランプ表示ついて説明します。

POWERランプ(⏻)

StorageServerの電源がONの間、POWERランプが緑色に点灯しています。電源がStorageServerに供給されていないとPOWERランプが消灯します。

STATUSランプ(⇔)

StorageServerが正常に動作している間はSTATUSランプは緑色に点灯します。STATUSランプが消灯しているときや、アンバー色に点灯/点滅しているときはStorageServerになんらかの異常が起きたことを示します。保守サービス会社に連絡してください。(タワーモデルの場合はフロントベゼルが確実に閉じられていないことが考えられます。フロントベゼルを確実に閉じてみてください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください。)

- ESMPROまたはオフライン保守ユーティリティを使ってエラーログを参照することで故障の原因を確認することができます。
- いったん電源をOFFにして再起動するときに、OSからシャットダウン処理ができる場合はシャットダウン処理をして再起動してください。シャットダウン処理ができない場合はリセット、強制電源OFFをするか(34ページ参照)、一度電源コードを抜き差しして再起動させてください。

DISK ACCESSランプ(⌸)

DISK ACCESSランプは3.5インチデバイスベイに取り付けられているハードディスクの状態を示します。
ハードディスクにアクセスするたびにランプは緑色に点灯します。

DISK ACCESSランプがアンバー色に点灯している場合は、ハードディスクに障害が起きたことを示します。故障したハードディスクの状態はそれぞれのハードディスクにあるランプで確認できます。

DISK ACCESSランプが緑色とアンバー色の交互に点滅している場合またはアンバー色に点滅している場合は、内蔵のディスクアレイコントローラに接続されているハードディスクのリビルド(再構築)が行われていることを示します。

SLEEPランプ(☽)

本システムでは動作しません。

アクセスランプ

フロッピーディスクドライブとCD-ROMドライブのアクセスランプは、それぞれにセットされているディスクやCD-ROMにアクセスしているときに点灯します。

3.5インチデバイスベイのランプ

3.5インチデバイスベイに搭載しているハードディスクには3種類のランプがあります。

- **DISKパワーランプ(☼)**

  ハードディスクに電源が供給されると点灯します。ハードディスクの取り付け後、StorageServerの電源をONにしてもこのランプが点灯しない場合は、もう一度ハードディスクを取り付け直してください。

- **DISKアクセスランプ(⌸)**

  ハードディスクにアクセスがあるたびに点灯します。

- **DISK故障ランプ(⚡)**

  ディスクアレイを構成しているときに取り付けているハードディスクが故障すると点灯します(同時にDISK ACCESSランプもアンバー色に点灯します)。

ディスクアレイ(RAID1、RAID5)を構成している場合は、1台のハードディスクが故障しても運用を続けることができますが早急にディスクを交換して、再構築(リビルド)を行うことをお勧めします(ディスクの交換はホットスワップで行えます)。

ハードディスクの再構築(リビルド)中は、点滅します(故障ではありません)。ディスクアレイ構成で、故障したハードディスクを交換すると自動的にデータのリビルドを行います(オートリビルド機能)。リビルド中はDISK故障ランプが点滅します(同時にDISK ACCESSランプもアンバー色に点灯します)。

リビルドを終了するとランプは消灯します(同時にDISK ACCESSランプも消灯します)。リビルドに失敗するとランプが点灯します(同時にDISK ACCESSランプもアンバー色に点滅します)。

リビルド中にStorageServerの電源をOFFにすると、リビルドは中断されます。再起動してからハードディスクをホットスワップで取り付け直してリビルドをやり直してください。ただし、オートリビルド機能を使用するときは次の注意事項を守ってください。

- **電源をOFFにしないでください(いったん電源をOFFにするとオートリビルドは起動しません)。**
- **ハードディスクの取り外し/取り付けの間隔は90秒以上あけてください。**
- **他にリビルド中のハードディスクが存在する場合は、ハードディスクの交換は行わないでください。**

電源ユニットのランプ

背面にある電源ユニットには、電源ユニットPOWERランプがあります。電源ユニットにある電源ユニットPOWERスイッチがONの状態でStorageServerの電源をONにすると電源ユニットPOWERランプが点灯します。StorageServerの電源をONにしてもランプが点灯しない場合は、電源ユニットの故障が考えられます。保守サービス会社に連絡して電源ユニットを交換してください。

一方の電源ユニットが故障しても、もう一方の電源ユニットで運用を続けることができます(冗長機能)。また、故障した電源ユニットはシステムを停止することなく、ホットスワップ(電源ONのまま)で交換できます。

LANボードのランプ

背面のPCIボードのI/Oパネルには標準装備のLANボードのポートがあります。ポートの隣には3つのランプがあり、ランプの表示でポートの状態を知らせます。

- 100TXランプ

  LANポートと接続されているHUBと100Mbpsの転送レートでデータの送受信を行っているときに点灯します。

- ACTランプ

  LANポートと接続されているHUBとデータの送受信を行っているときに点灯します。

- LNKランプ

  LANポートと接続されているHUBと接続されているときに点灯します。

エントリモデル(ラックタイプ)(N8100-726)

N8100-726のランプ表示ついて説明します。

POWERランプ(⏻/☽)

StorageServerの電源がONの間、緑色に点灯しています。電源がStorageServerに供給されていないときは消灯します。

また、StorageServerが省電力モード(スリープモード)で動作しているときは、アンバー色に点灯します(本システムでは動作しません)。

STATUSランプ(⟐)

StorageServerが正常に動作している間はSTATUSランプは緑色に点灯します。STATUSランプが消灯しているときや、アンバー色に点灯/点滅しているときや赤色に点灯しているときはStorageServerになんらかの異常が起きたことを示します。保守サービス会社に連絡してください。

- ESMPROまたはオフライン保守ユーティリティを使ってエラーログを参照することで故障の原因を確認することができます。
- いったん電源をOFFにして再起動するときに、OSからシャットダウン処理ができる場合はシャットダウン処理をして再起動してください。シャットダウン処理ができない場合はリセット、強制電源OFFをするか(34ページ参照)、一度電源コードを抜き差しして再起動させてください。

DISK ACCESSランプ(⛁)

DISK ACCESSランプは3.5インチデバイスベイに取り付けられているハードディスクの状態を示します。
ハードディスクにアクセスするたびにランプは緑色に点灯します。

DISK ACCESSランプがアンバー色に点灯している場合は、ハードディスクに障害が起きたことを示します。故障したハードディスクの状態はそれぞれのハードディスクにあるランプで確認できます。

DISK ACCESSランプが緑色とアンバー色の交互に点滅している場合、またはアンバー色に点滅している場合は、内蔵のディスクアレイコントローラに接続されているハードディスクのリビルド(再構築)が行われていることを示します。

ACT/LINKランプ

LANポート2の状態を表示します(その他のポートの表示については「LANボードのランプ」を参照してください)。本体とHUBに電力が供給されていて、かつ正常に接続されている場合に点灯します(LINK)。ネットワークポートが送受信を行っているときに点滅します(ACT)。LINK状態なのにランプが点灯しない場合は、ネットワークケーブルの状態やケーブルの接続状態を確認してください。それでもランプが点灯しない場合は、ネットワーク(LAN)コントローラが故障している場合があります。お買い求めの販売店、または保守サービス会社に連絡してください。

100TXランプ

LANポート2の通信モードが100BASE-TXか、10BASE-Tのどちらのネットワークインタフェースで動作されているかを示します(その他のポートの表示については「LANボードのランプ」を参照してください)。点灯しているときは、100BASE-TXで動作されていることを示します。消灯しているときは、10BASE-Tで動作されていることを示します。

アクセスランプ

フロッピーディスクドライブとCD-ROMドライブのアクセスランプは、それぞれにセットされているディスクやCD-ROMにアクセスしているときに点灯します。

3.5インチデバイスベイのランプ

3.5インチデバイスベイに搭載しているハードディスクには2種類のランプがあります。

● DISKパワー/アクセスランプ(⌸)

ハードディスクに電源が供給されると点灯し、アクセスがあると点滅します。ハードディスクの取り付け後、StorageServerの電源をONにしてもこのランプが点灯しない場合は、もう一度ハードディスクを取り付け直してください。

● DISK故障ランプ(⌸)

ディスクアレイを構成しているときに取り付けているハードディスクが故障すると点灯します(同時にDISKパワー/アクセスランプも緑色に点灯します)。

ディスクアレイ(RAID1、RAID5)を構成している場合は、1台のハードディスクが故障しても運用を続けることができますが早急にディスクを交換して、再構築(リビルド)を行うことをお勧めします(ディスクの交換はホットスワップで行えます)。

ハードディスクの再構築(リビルド)中は、点滅します(故障ではありません)。ディスクアレイ構成で、故障したハードディスクを交換すると自動的にデータのリビルドを行います(オートリビルド機能)。リビルド中はDISK故障ランプが点滅します(同時にStorageServer本体のDISK ACCESSランプもアンバー色に点灯または点滅します)。

リビルドを終了するとランプは消灯します。リビルドに失敗するとランプがアンバー色に点灯します。

重要

リビルド中にStorageServerの電源をOFFにすると、リビルドは中断されます。再起動してからハードディスクをホットスワップで取り付け直してリビルドをやり直してください。ただし、オートリビルド機能を使用するときは次の注意事項を守ってください。

- **電源をOFFにしないでください(いったん電源をOFFにするとオートリビルドは起動しません)。**
- **ハードディスクの取り外し／取り付けの間隔は90秒以上あけてください。**
- **他にリビルド中のハードディスクが存在する場合は、ハードディスクの交換は行わないでください。**

電源ユニットのランプ

背面にある電源ユニットには、2種類のランプがあります。

- オプションの電源ユニットを搭載している場合は、一方の電源ユニットが故障しても、もう一方の電源ユニットで運用を続けることができます(冗長機能)。また、故障した電源ユニットはシステムを停止することなく、ホットスワップ(電源ONのまま)で交換できます。
- ACインレットは電源ユニットごとにあります。また、ランプ(2つ)は電源ユニット単位でその状態を表示します。

- **電源ユニットステータスランプ(⏻)**

電源ユニットにAC電源が供給された状態でStorageServerの電源をONにすると電源ユニットステータスランプ(緑色)が点灯します。StorageServerの電源をONにしても電源ユニットステータスランプが点灯しなかった場合は、電源ユニットの故障が考えられます。保守サービス会社に連絡して電源ユニットを交換してください。

- **電源ユニットフォールトランプ(⚠)**

電源ユニットになんらかの異常が起きると電源ユニットフォールトランプ(赤色)が点灯します。保守サービス会社に連絡して電源ユニットを交換してください。

LANボードのランプ

背面のPCIボードのI/Oパネルには標準装備のLANボードのポート(LANポート0と1)があります。ポートの隣には3つのランプがあり、ランプの表示でポートの状態を知らせます。

- **100TXランプ**

  LANポートと接続されているHUBと100Mbpsの転送レートでデータの送受信を行っているときに点灯します。

- **ACTランプ**

  LANポートと接続されているHUBとデータの送受信を行っているときに点灯します。

- **LINKランプ**

  LANポートと接続されているHUBと接続されているときに点灯します。

基本的な操作

StorageServerの基本的な操作の方法について説明します。

フロントベゼル

StorageServer前面をカバーしているフロントベゼルの開き方（タワーモデル）または取り外し方（ラックマウントモデル）について説明します。

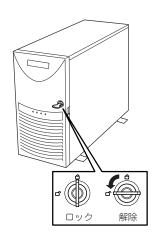
ミッドレンジモデル(NS8100-722J01)

NS8100-722J01のフロントベゼルは取り外す必要はありません。ディスクエンクロージャユニットのフロントベゼルの取り外しはディスクエンクロージャユニットのユーザーズガイドを参照してください。

エントリモデル（タワータイプ）(N8100-725)

N8100-725のフロントベゼルは電源のON/OFFやフロッピーディスクドライブ、CD-ROMドライブを取り扱うときに開きます。

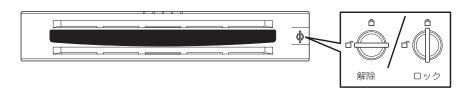
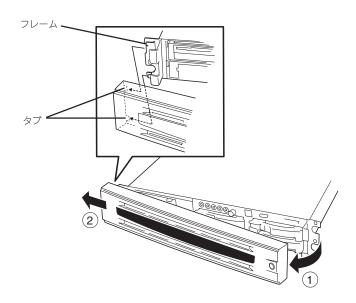
重要

- **フロントベゼルは、添付のセキュリティキーでロックを解除しないと開けることができません。**
- **ソフトウェアにはCD-ROMのトレーをイジェクトさせるコマンドを持つものがあります。この場合、フロントドアが開いていることを確認してからコマンドを実行してください。フロントベゼルを閉じたままコマンドを実行すると、フロントベゼルにCD-ROMのトレーがぶつかり、装置を故障させることがあります。**

キースロットに添付のセキュリティキーを差し込み、キーを回してロックを解除してから、フロントベゼル端の取ってを軽く持って手前に引くと開きます。フロントベゼルを閉じた後は、セキュリティのためにもキーでロックしてください。

エントリモデル(ラックタイプ)(N8100-726)

N8100-726の電源のON/OFFやフロッピーディスクドライブ、CD-ROMドライブ、5.25インチデバイスを取り扱うとき、3.5インチデバイスベイへのハードディスクの取り付け／取り外しを行うときはフロントベゼルを取り外します。

重要 **フロントベゼルは、添付のセキュリティキーでロックを解除しないと開けることができません。**

1. キースロットに添付のセキュリティキーを差し込み、キーをフロントベゼル側に軽く押しながら回してロックを解除する。

2. フロントベゼルの右端を軽く持って手前に引く。
3. フロントベゼルを左に少しスライドさせてタブをフレームから外して本体から取り外す。

フロントベゼルを取り付けるときは、フロントベゼルの左端のタブを本体のフレームに引っかけるようにしながら取り付けます。取り付けた後はセキュリティのためにもキーでロックしてください。

POWERスイッチ

前面にあるPOWERスイッチでStorageServerの電源をONにします。電源のOFFは管理PCからブラウザベースの「WebUI」を使います。

電源のON

StorageServerの電源は前面にあるPOWERスイッチを押すとONの状態になります。
次の順序で電源をONにします。

ここでは、セットアップを完了した後の電源のONの手順について説明しています。導入後のセットアップを始めるときは、62ページの「システムのセットアップ」を参照してください。

1. StorageServerに電源コードが接続されていることを確認する。
2. StorageServerのフロッピーディスクドライブ、およびCD-ROMドライブにディスクがセットされていないことを確認する。

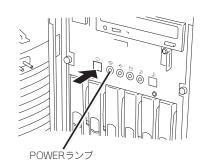
   重要

   CD-ROMドライブにディスクがセットされているとそのディスクから起動を始めます。必ずディスクがセットされていないことを確認してください(CD-ROMドライブの場合は、電源ONの直後にCD-ROMドライブのスイッチを押してトレーをイジェクトすれば問題ありません)。

   添付の「Network Attached Storage CD-ROM」をCD-ROMドライブにセットしたまま電源をONするとStorageServerソフトウェアの再インストールを始めます。それまでの設定がすべて初期値に戻ってしまいます。

3. StorageServer前面にあるPOWERスイッチを押す。
4. クライアントマシンのWebブラウザを使ってStorageServerへアクセスできることを確認する。

   詳しくは40ページの「StorageServerへの接続」を参照してください。

<N8100-725の例>

電源のOFF

次の順序で電源をOFFにします。

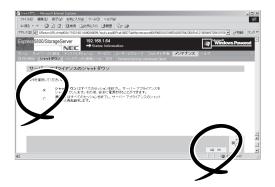
1. クライアントマシンのWebブラウザよりStorageServerの管理コンソール（WebUI）へ接続する。

   詳しくは40ページの「StorageServerへの接続」を参照してください。

2. ［メンテナンス］をクリックする。

3. ［シャットダウン］をクリックする。

4. ［シャットダウン］を選択し、［OK］ボタンをクリックする。

   自動的に電源がOFFになります。

強制電源OFF

「電源のOFF」に示す方法でクライアントマシンからStorageServerをシャットダウンできなくなったときや、POWERスイッチを押しても電源をOFFにできなくなったときに使用します。

StorageServerのPOWERスイッチを4秒ほど押し続けてください。電源が強制的にOFFになります。（電源を再びONにするときは、強制電源OFFから約10秒ほど待ってから電源をONにしてください。）

フロッピーディスクドライブ

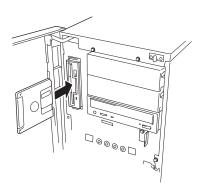
StorageServer前面にフロッピーディスクを使ったデータの読み出し(リード)・保存(ライト)を行うことのできるフロッピーディスクドライブが搭載されています。

StorageServerのフロッピーディスクドライブは、「設定ディスク(63ページ参照)」と呼ばれるフロッピーディスクを使ってStorageServerをセットアップするときに使用します。

フロッピーディスクのセット/取り出し

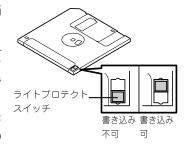
<N8100-725の例>

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットする前にStorageServerの電源がON(POWERランプ点灯)になっていることを確認してください。また、フロッピーディスクのライトプロテクトスイッチが「書き込み可」にセットされていることを確認してください。

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに完全に押し込むと「カチッ」と音がして、フロッピーディスクドライブのイジェクトボタンが少し飛び出します。
イジェクトボタンを押すとフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブから取り出せます。

- 設定ディスク以外のフロッピーディスクをセットしないでください。誤動作の原因となります。
- フロッピーディスクアクセスランプが消灯していることを確認してからフロッピーディスクを取り出してください。アクセスランプが点灯中に取り出すとデータが破壊されるおそれがあります。
- フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクをセットしたままStorageServerの電源をONにすると(または再起動すると)、StorageServerを起動することができません。セットアップを行うときを除いて電源のONや再起動をするときは、フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブにセットされていないことを確認してください。

フロッピーディスクの取り扱いについて

フロッピーディスクは、StorageServerをセットアップするときに必要なものです。またその構造は非常にデリケートにできていますので、次の点に注意して取り扱ってください。

- フロッピーディスクドライブにはていねいに奥まで挿入してください。
- ラベルは正しい位置に貼り付けてください。
- 鉛筆やボールペンで直接フロッピーディスクに書き込んだりしないでください。
- シャッタを開けないでください。
- ゴミやほこりの多いところでは使用しないでください。
- フロッピーディスクの上に物を置かないでください。
- 直射日光の当たる場所や暖房器具の近くなど温度の高くなる場所には置かないでください。
- たばこの煙に当たるところには置かないでください。
- 水などの液体の近くや薬品の近くには置かないでください。
- 磁石など磁気を帯びたものを近づけないでください。
- クリップなどではさんだり、落としたりしないでください。
- 磁気やほこりから保護できる専用の収納ケースに保管してください。
- フロッピーディスクは、保存している内容を誤って消すことのないようにライトプロテクト（書き込み禁止）ができるようになっています。ライトプロテクトされているフロッピーディスクは、読み出しはできますが、ディスクのフォーマットやデータの書き込みができません。重要なデータの入っているフロッピーディスクは、書き込み時以外はライトプロテクトをしておくようお勧めします。3.5インチフロッピーディスクのライトプロテクトは、ディスク裏面のライトプロテクトスイッチで行います。

- フロッピーディスクは、とてもデリケートな記憶媒体です。ほこりや温度変化によってデータが失われることがあります。また、オペレータの操作ミスや装置自身の故障などによってもデータを失う場合があります。このような場合を考えて、万一に備えて大切なデータは定期的にバックアップをとっておくことをお勧めします。

CD-ROMドライブ

StorageServer前面にCD-ROMドライブがあります。StorageServerのCD-ROMドライブは次の場合に使用します。それ以外では使用しません。また、装置に添付されていたCD-ROM以外をセットしないでください。

- 添付の「Network Attached Storage CD-ROM」を使ってStorageServerソフトウェアを再インストールするとき（267ページ参照）
- 添付の「Express5800/StorageServer 保守・管理ツールCD-ROM」を使ってStorageServerを保守するとき（182ページ参照）

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- **CD-ROMドライブのトレーを引き出したまま放置しない**
- **ヘッドフォンは耳にあてたまま接続しない**

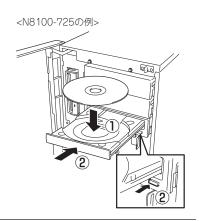
CD-ROMのセット/取り出し

StorageServerのモデルによって標準装備のCD-ROMドライブは異なります。
お使いのモデルに合わせて読み分けてください。

- 添付の「Network Attached Storage CD-ROM」および「Express5800/StorageServer 保守・管理ツールCD-ROM」以外のCD-ROMをセットしないでください。誤動作の原因となります。
- CD-ROMドライブに「Network Attached Storage CD-ROM」をセットしたままStorageServerの電源をONにすると（または再起動すると）、StorageServerソフトウェアの再インストールを始めます。それまでの設定がすべて初期値に戻ってしまいます。
- CD-ROMドライブに「Express5800/StorageServer 保守・管理ツールCD-ROM」をセットしたままStorageServerの電源をONにすると（または再起動すると）、CD-ROMから起動し、StorageServerとして使用できません。

ミッドレンジモデル/エントリモデル（タワータイプ）（NS8100-722J01/725）

CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする前にStorageServerの電源がON（POWERランプ点灯）になっていることを確認してください。
CD-ROMドライブ前面のオープン／クローズボタンを押すとトレーが出てきます。CD-ROMの文字が印刷されている面を上にしてトレーの上に静かに、確実に置いてください。
オープン／クローズボタンを押すか、トレーの前面を軽く押すと、トレーは自動的にCD-ROMドライブ内にセットされます。

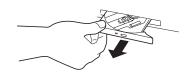
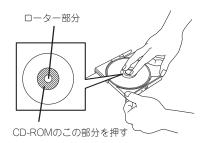
<N8100-725の例>

- **NS8100-722J01(ミッドレンジモデル)の場合は、トレーにあるツメがCD-ROMを保持していることを確認してからCD-ROMドライブ内にロードさせてください。**
- **CD-ROMのセット後、CD-ROMドライブの駆動音が大きく聞こえるときはCD-ROMをセットし直してください。**

CD-ROMの取り出しは、CD-ROMをセットするときと同じようにオープン／クローズボタンを押してトレーをイジェクトし、トレーから取り出します(アクセスランプがオレンジ色に点灯しているときは、ディスクにアクセスしていることを示します。この間、オープン／クローズボタンは機能しません)。

OSによってはOSからトレーをイジェクトすることもできます。
CD-ROMを取り出したらトレーを元に戻してください。

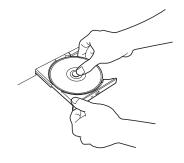
エントリモデル(ラックタイプ)(N8100-726)

CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする前にStorageServerの電源がON(POWERランプ点灯)になっていることを確認してください。
CD-ROMドライブ前面のCDトレーイジェクトボタンを押すとトレーが少し出てきます。トレーを持って止まるまでゆっくりと引き出してください。
CD-ROMはCD-ROMの文字が印刷されている面を上にしてトレーの上に静かに、確実に置き、右図のように片方の手でトレーを持ちながら、もう一方の手でトレーの中心にあるローター部分にCD-ROMの穴がはまるように指で押して、トレーにセットします。

重要

ラベルを貼り付けているCD-ROMはセットしないでください。誤動作の原因となります。

トレーの前面を軽く押してCD-ROMドライブ内にセットすれば完了です。

CD-ROMのセット後、CD-ROMドライブの駆動音が大きく聞こえるときはCD-ROMをセットし直してください。

CD-ROMの取り出しは、CD-ROMをセットするときと同じようにCDトレーイジェクトボタンを押してトレーを引き出します。
右図のように、片方の手でトレーを持ち、もう一方の手でトレーの中心にあるローター部分を押さえながらCD-ROMの端を軽くつまみ上げるようにしてトレーから取り出します。CD-ROMを取り出したらトレーを元に戻してください。

CD-ROMを取り出せないときは. . .

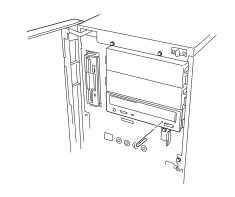
オープン／クローズボタンを押してもCD-ROMをStorageServerから取り出せない場合は、次の手順に従ってCD-ROMを取り出します。

1. POWERスイッチを押してStorageServerの電源をOFF（POWERランプ消灯）にする。
2. 直径約1.2mm、長さ約100mmの金属製のピン（太めのゼムクリップを引き伸ばして代用できる）をCD-ROM前面右側にあるエマージェンシーホールに差し込んで、トレーが出てくるまでゆっくりと押す。

   重要

   - **つま楊枝やプラスチックなど折れやすいものを使用しないでください。**
   - **上記の手順を行ってもCD-ROMが取り出せない場合は、保守サービス会社に連絡してください。**

3. トレーを持って引き出す。
4. CD-ROMを取り出す。
5. トレーを押して元に戻す。

<N8100-725の例>

CD-ROMの取り扱いについて

StorageServerにセットするCD-ROMは次の点に注意して取り扱ってください。

- CD-ROMを落とさないでください。
- CD-ROMの上にものを置いたり、曲げたりしないでください。
- CD-ROMにラベルなどを貼らないでください。
- 信号面（文字などが印刷されていない面）に手を触れないでください。
- 文字の書かれている面を上にして、トレーにていねいに置いてください。
- キズをつけたり、鉛筆やボールペンで文字などを直接CD-ROMに書き込まないでください。
- たばこの煙の当たるところには置かないでください。
- 直射日光の当たる場所や暖房器具の近くなど温度の高くなる場所には置かないでください。
- 指紋やほこりがついたときは、乾いた柔らかい布で、内側から外側に向けてゆっくり、ていねいにふいてください。
- 清掃の際は、CD専用のクリーナをお使いください。レコード用のスプレー、クリーナ、ベンジン、シンナーなどは使わないでください。
- 使用後は、専用の収納ケースに保管してください。

StorageServerへの接続

StorageServerはセットアップを完了したらそれ以降は特に操作しなくても動作可能です。運用中の管理や設定の変更はクライアントマシンの「管理コンソール(WebUI)」または「Microsoft Management Console(MMC)」から行います。

また、WebUIにはターミナルサービスクライアント機能が含まれています。

WebUIを使用する場合

管理PCのWebブラウザを使って、ネットワーク接続されているStorageServerに接続します。

1. クライアントマシン上でWebブラウザを起動する。
2. URL入力欄([アドレス]または[場所]など)に「http://x.x.x.x:8099/」を指定する。

   「x.x.x.x」の部分にはStorageServerのIPアドレスを入力してください。
3. Administratorでログインする。

   パスワードは、初期状態では初期設定ツールの管理者パスワードに指定した内容になっています。

   正しくログインできると右の画面が表示されます。

また、WebUIはESMPRO/ServerManagerからも起動できます。ただし、この場合は事前にExpress5800/StorageServer連携モジュールをESMPRO/ServerManagerがインストールされている環境(PC)に適用しておくことが必要です。

Microsoft Management Console(MMC)を使用する場合

クライアントマシンがWindows 2000の場合のみ使用できます。

1. スタートメニューから[管理ツール]→[コンピュータの管理]の順にクリックする。

2. [操作]→[別のコンピュータへ接続]の順に選択し、[名前]欄にコンピュータ名を入力する。

   コンピュータ名は初期設定ツールで設定した名称です。